

From Editor

より快適な輸入車ライフを目指して

TOP INTERVIEW ～板金・塗装／ボディリペアにおけるディーラー・クオリティ～



設備や塗料はすべてメーカーの指定するもので揃えられている。(上段右塗装工程。マスキングに使用する素材も専用のものとなる。(下段左) 塗装ブース。SST サービスはボディコーティングにおけるクオリティの高さでも定評がある。特に「磨き」の技術はトップレベル。どの作業も、メルセデスに限らず、他ブランドのクルマでも受け入れているそうだ。同社はメルセデス・ベンツ品川と同じグループに属する系列会社である。

「はやい・安い」をキャッチフレーズにした街の板金屋さんが隆盛を極めている。でも、メルセデスのような高級車オーナーの場合は、大切な愛車の現状復帰をそのようなコンビニエントを売りにする工場に任せてしまうのは気が引けるはずである。やはり正規ディーラーのほうが安心して任せられる。そこで、街の板金屋さんとメルセデス・ベンツ指定板金塗装工場の具体的な違いは？となるのだけれど、感覚的には理解できるものの「ここだよ」と答えられる方は少ないのではないだろうか。編集部はそんな疑問に答えるため、都内屈指のメガ・ディーラー、メルセデス・ベンツ品川の3階に広大なファクトリーを展開する「SST サービス」を訪ね、椿洋社長に板金・塗装の基本を教えてもらうことにした。

「いま話題になっているスポット板金・塗装というのは、基本的にダメージが小さい場合に行なう簡易的なものとお考えください。経年変化などの

リスクをとともないます。ですから、保証の対象にはなりません、価格を抑えることができるというメリットもあるわけです。当社でも、ライト・リペア・サービスというメニューを設けお客様のご要望に対応しています。ただし、この作業法こそ、塗料の品質や職人の技量により仕上がりの差が如実に出るんですよ」

さて、本題となるディーラー・クオリティについて話してもらおう。

「ポイントが4つあると考えます。まず、メルセデスの最新モデルまで対応できるメーカー指定の最新設備が整っていること。2つ目は、あらゆるボディカラーの純正塗料が徹底した管理の元でストックされていること。さらに、モデルチェンジやマイナーチェンジによる素材や形状の変更箇所などの膨大な情報がリアルタイムで入ってくること。そして、プレミアム・ブランドを扱うというクラフトマンシップです」

椿社長は、最後に挙げた職人のこだわりを特に重視していると話す。

「作業に取り組む姿勢、そして意識レベルの高さ、これがディーラー・クオリティの基本だと思います。つまり、プレミアム・ブランドを扱う“職人の誇り”です。メーカーの指定する板金・塗装の作業工程は、通常の倍以上にも及ぶのです。メルセデスのスペシャリストは、その手間を当然のことと受けとめています」

塗装の工程を見学させてもらったが、その作業は、初期段階の洗車から最終の仕上がりチェックに至るまでまさに徹底管理されている。普通の工場なら端折ってしまう細かい作業を丹念に積み重ねることによって仕上がりと耐久性に差を出すのだ。

SST サービスは、スポット板金・塗装からフレーム修正、そしてボディコーティングや室内クリーニングまで、様々なニーズに対応している。信頼のおけるファクトリーを探している方は相談に行ってみるといいだろう。

Text: 野田義彦 / Photo: 丸山博人



SST サービスを率いる椿洋社長は25歳まで全日本ロードレース選手権において上位のランキングを獲得していたトップレーサー。彼のクオリティに対するこだわりは、レーサー時代に叩き込まれたプロ意識が源泉になっているのかもしれない。レーサーこそ究極の職人だ。

SST Service

東京都品川区東品川 3-28-25 (メルセデス・ベンツ品川内) Tel.03-5715-7101 <http://www.ssts.jp/>